

# 中学生バドミントン大会 審判の心得

和歌山県中学生バドミントン連盟

はじめに

この大会では、選手の皆さんが主審や線審（得点係）を担当します。審判は試合を公平かつスムーズに進めるためにとても大切な役割です。ルールを守り、正しく判断することで、選手同士が気持ちよく試合できるようにしましょう。

## <主審の役割（試合の進行と判定をする人）と注意事項>

～試合開始前～

- ① 選手の確認と服装やゼッケンに問題がないか確認し、トス（じゃんけん）を行いましょう。
- ② 線審が配置されていることと、線審がすわる椅子の位置が正しいか確認しましょう。
- ③ 選手に「試打」を1回だけ許可します（軽く打ち合う時間）。

～試合中～

- ④ サービスが正しく行われたかを確認します。
- ⑤ 得点をはっきりと声に出してコールしましょう。
- ⑥ ショートサービスラインとセンターラインは主審が判断します。【図1参照】
- ⑦ インターバルの時間を正しく計測しましょう。（ストップウォッチを使ってください。）  
すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが11点になったとき、60秒を超えないインターバルが認められています。また、各ゲーム間に120秒を超えないインターバルが認められています。
- ⑧ 線審の判定に対してアイコンタクトをして確認しましょう。  
※線審が明らかに間違ったコールをしたと確信する場合には、線審の判定を変更することができます。
- ⑨ トラブルが起きたら、すぐに本部に知らせましょう。

～試合終了後～

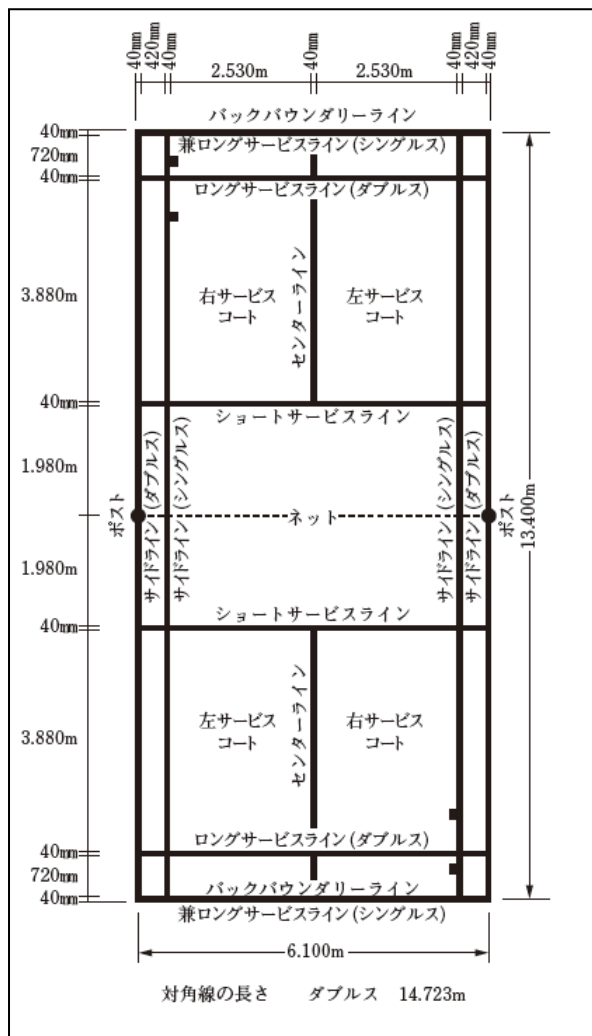
- ⑩ マッチ終了後、勝者に勝者サインをもらってスコアシートを完成させ、敗者にスコアシートを渡し、本部に提出してもらってください。主審署名も忘れずに！

## <線審（得点係）の役割と注意事項>

- ① 担当ラインについて、インとアウトの判定をします。【図1参照】  
（ロングサービスライン、バックバウンダリーライン、サイドライン）
- ② ダブルスとシングルスで椅子の位置を変更しましょう。（使用するラインが異なるため）
- ③ シャトルがインかアウトかを、はっきりとジェスチャーで示しましょう。【図2参照】
  - ・アウトの時：大きな声で「アウト」とコールし、両腕を水平に広げて合図し、主審を注視する。
  - ・インの時：無言で、右手でそのラインを指して主審を注視する。
  - ・落下点が見えない時：両手で目を覆って主審に合図する。  
（シャトルの落下点が選手に隠れて見えずに判定できなかった場合）

- ④ 担当ラインの延長線上でシャトルを見るようにしましょう。見えにくい角度にシャトルが飛んできた場合は、上半身を傾けるなどシャトルの落下点が見やすくなるよう態勢を変えましょう。
- ⑤ シャトルがコート面に触れるまではコールや合図はしないようにしましょう。また、決して選手や監督、観客に聞いたり、その言動に影響を受けたりしてはいけません。
- ⑥ 得点係もスコアに誤りがないか確認しながら行いましょう。

【図 1 バドミントンコートの各種名称】



【図 2 線審のジェスチャー】



### <審判をするときの心がまえ>

- ① 試合を公平に進めることが一番大切です。
- ② 分からないことがあれば、すぐに本部や先生、監督・コーチに相談しましょう。
- ③ 審判中は私語をせず、集中して役割を果たしましょう。
- ④ 審判も大切な大会の一部です。責任を持って取り組みましょう。

最後に

審判は「試合を支える大切な役割」です。皆さんの協力で大会がスムーズに進みます。自信を持って、堂々と審判をしてください。